

【一番町保育園】

●2025.1.28 ふりかえり(先生 7 名、スタッフ 1 名)

スタッフ①:

では、まずはラーニングストーリーに書いていただいたことを基に話していただければ嬉しいです。

先生①:

はい、わかりました。では年少から。

まず外部の方についてもらって、グループで何かをするという活動自体も、経験がないので、それが新鮮でした。子どもたちが自由に気になったものの方へ歩いていったので、もしかしたら、スタッフの方がやりたいことや提案したい遊びがあったのに、それが、全くできなかったのかもしれませんが。私もどこまで入っていいのかわからなかったのですが、子どもたちは、普段から自然と触れ合って遊ぶことがとても好きだったので、素直に、見つけた大きい木の枝をトナカイの角みたいにして遊び始めました。そこから他の子ども木の枝を見つけ始め、垂れ下がっている木の枝を、揺らしたり、たたいたり、ちよんちよんとつついてみたりして、木の枝で遊ぶことがしばらく続きました。舞台のようにになっている場所で 1 人の子が、その枝をバイオリンにして遊び始めたら、他の子どもたちも、それぞれに木の枝を楽器に見立て始めて、みんなで演奏会のように、その舞台の上でぐるぐる回りながら、歌っているような、また演奏しているような展開が見られました。とても楽しそうでした。

スタッフ①:

3歳児については、スタッフによる終了後の振り返りで、**見つける目が本当に育っている子どもたちで、好奇心がすごい**という話が出ました。一番町保育園での、普段の保育のおかげだろうと思っていました。また、おのおのが自由に遊ぶことも、できそうでできないことなので、それができるのは本当にすごいと思いました。私たちもそこは大事にしたいと思っています。

先生①:

あまりにも自由でしたが、大丈夫でしたか。スタッフの方は恐らく山のほうに行きたかったのだと思いますが、最初から違う方向に行ってしまう、私たちはそれを追いかけてました。

スタッフ①:

たぶん予定ではそうだったと思います。ただよく知らない場所において、知らないスタッフがいる中で、あれほど自由にできて、安心してもらえるのも、あのような場所ならではの

2024.10.31 一番町保育園

思います。普段からあのように自由に遊ぶ姿が見られるのですか。

先生①:

お庭でもそうですし、自分たちで見つけたものを子どもたち同士で共有したりしています。

スタッフ①:それが遊木の森に来て、余計にそう感じられたのかもかもしれません。

先生①:

前からあるにはありますが、お庭や近くのグラウンドの自然の風景というか、さまざまなものが季節によって変わってきたことに、さらに気付くようになっていきますし、楽しみにしている様子も強くなっていると思いました。

スタッフ①:

今回はテーマとして五感を使うことも大事にしているので、「これはふわふわだね」とか、「ちくちくだね」とか、「こんなにおいがするね」などの投げ掛けがスタッフからあったかと思いますが、その辺りは園に帰ってから意識されましたか。

先生②:

私が 2 才の男の子と虫探しをしていたときに、その子が何かのうんちのにおいがすると言って土を掘っていました。その子は、ここはうんちのにおいがするから虫がいると思うと言っていました。私は鼻があまりよくないので、においは分かりませんでした。それも遊木の森に行ったことがきっかけかもしれません。そのような目線で探している姿の子はあまり見たことがなかったので、そうかもしれないと思いました。

スタッフ①:においから探したんですね。

先生②:そうなんです。においからも気付くこともあるんですね。

スタッフ①:

すごいですね。鼻を使うというのは面白いです。ありがとうございます。では年中について、お願いします。

先生③:

年中は、子どもたちが行きたい方向に進んでいくのですが、「僕はこっちがいい」、「僕はこっちがいい」と言う子もいます。それで、「じゃ、どっち行く？ どっちがいい？ み

2024.10.31 一番町保育園

んなで集まって決めよう」と言って話をします。その途中にとっても大きい木の枝みたいなものがあったので、何だろうと思ってよく見ると、それはとても大きなミミズでした。

スタッフ①:枝ではなかったのですね。

先生③:

私も驚きました。木の枝かと思ったら、本当に大きなミミズでした。これほど大きなミミズは見たことがありません。自然がいっぱいな所でなければ見ることはできないので。その後、保育園にもあるのですが見つけた虫を観察ケースに入れて、じっくり観察したり、グループで活動していると違うグループの子が来て、「何見つけた？」と尋ねてきたりします。そのようにして共有して。そのような一つの発見に対して、子どもたちがたくさんのことを考えています。虫が苦手な子もありますが、「ちょっと見てみる？」と言って見せることもできます。またやってみようとしていたり、触ってみようとしていたりして、挑戦してみようかなという気持ちが生まれるのかもしれません。

スタッフ①:

ありがとうございます。振り返りのときのことで、何か一つのことに誰かが興味を持ったときに、皆で一緒に立ち止まるのがとても大事だ、大人も一緒にしゃがんで楽しめるよという話をしていました。あのときは面白かったです。園に戻ってからも、変化がありましたか？それともそれほどではありませんでしたか？

先生④:

モデルプログラムの後の12月に年中と年長は城北公園に行ったところ、今までの公園の散歩のときとは全く違いました。まず子どもの目線が違い、発見も違います。ふかふかの葉っぱの上を歩いたりもしました。以前は落ちているものを持って帰りたいたって拾うことはよくやっていましたが、今回は、その拾ったものに対する見方がぼんやりしておらず、これはすごく固いとか、大きいとか、これはここの虫が食べているだとか、いろいろなことを言っていました。たった1回の遊木の森での体験でこれほど違うのか、と話しました。3学年でそれぞれ1回ずつでも経験できるので、子どもも変わると思います。私たちの目線も変わりますが、子どもの目線が全く変わったのには驚きました。私たちもびっくりして帰ってきました。

スタッフ①:それほど違いますか。

先生④:

2024.10.31 一番町保育園

全く違います。同じ城北公園に行っても、見つけてくるものや見ているものが違います。クモの巣とかそのようなところですよ。年齢の違いもあるでしょう。年長さんがもう 1 回行けば、またさらに見つけるようになり、それでもう 1 回できないかなという話をしたくらいです。それで 3 月のお別れ遠足が遊木の森になりました。

スタッフ①:そうですか。

先生④:

その後の散歩で、子どもが全く違う姿を見せたのです。私たちが、このようなものを見つけましょうとか、ドングリを拾いましょうなどと言ったのではなく、子どもが自分で行くと言った所へどんどん入っていきました。年中はネズミの死がいまで見つけました。経験が違うのです。少人数に 1 人の先生が付いてくれて、その距離感でしか分からないようなことを教えてもらいます。十数人もの子がいれば、皆でクモの巣を触ると壊れてしまいますが、少人数なら触れます。それをしてきたことが経験です。自分たちでそれができれば一番いいのですが、まだそれだけの力もありません。むしろ大人だけでもう 1 回フィールドワークをしてもいいのではないかと、職員全員で行って、やってくるのもいいのではないかと話していました。

スタッフ①:ぜひ一緒にやりましょう。

スタッフ①:ありがとうございます。年長さんのことも今、伺ってしまいましたが。

先生④:

年長は 2 グループありました。月齢や発達の差が大きかったので分けました。いつもは 1 グループですが、どちらにもリーダー的な存在の子が入ってしまい、先生たちにとっては活動しやすくなります。求めた答えを返すのでやりやすいとは思いますが、追いつかない人たちはいつまでたっても口を開けません。そのような思いもあって、ゆっくりな子たちもものを考えて言えればいいと思ったので、グループを二つに分けさせてもらいました。

スタッフ①:それで二つに分けたのですか。

先生④:

そうです。最初のグループは月齢が大きい子で、やんちゃな子も何人かいました。そのように活発で思ったことがすぐに口に出せる子のグループと、何か興味あるのか、興味がないのかよく分からないような子や月齢が下の 1 月、2 月、3 月生まれの子を集めたグループに分けました。発達に課題のある子も何人かいましたが、分けさせてもらったので、スタッフの

2024.10.31 一番町保育園

指導に対して、**ゆっくりな子たちもそれなりに考えたことを、これは何だと言うことができ  
ました。**私はそのゆっくりグループにいたのですが、誰かが先に答えを言わないからです。  
ただスタッフの方が求めるような反応には足りていなかったかもしれませんが、私の所に  
いた女性のスタッフはそれを温かく受け止めてくれていました。それで、もう一つのグルー  
プの活動とは体験の内容が違ったかもしれませんが、とても満足していました。

最後には、子ども同士でお互いに情報交換をしていました。元気なチームは、クモの巣に  
ものを投げると引っ掛かるというような、いろいろな遊びをしていました。そのような感じ  
で、スタッフの方が何か引っ掛かると言えば、その子たちは石でも投げてしまいそうでし  
た。しかし、スタッフの方はそっと触るように教えてくれました。そっと触るとベタツとします。  
なぜベタツとするのかということで、それはご飯やえさを捕獲するためだと説明してくれ  
たときに、そのベタツとするというのがすごくよかったです。

こちらの最初のチームは、投げたらくっつくという学びでしたが、そっと触ったら手にべ  
たりつくから、虫を捕まえることができるというところに最後は行き着いていたので、すば  
らしいと思いながら聞いていました。私がいるグループのほうに来てくれたスタッフの方はも  
っと先へ行きたいと思ったかもしれませんが、無理に引っ張らず、そこで立ち止まってくれ  
ました。レベル的にはとても低かったと思いますが、それに付き合ってくれていて、子どもた  
ちの背丈を考えてくれていると思いました。

発見なども同じです。拾った葉の形など、最初は全然興味がなかったのですが、それがび  
たつとはまってからは、何があっても、何かを見つけてはスタッフの所へ見せていました。最  
後にはピンクのような何かを見つけてとても喜んでいました。その後はそのスタッフに、引  
付くようにしていたので、一気に興味が高まったのだと思います。

その後で、城北公園に行ったときは、葉っぱとか、実とか、落ち葉とか、花などもあり、林の  
中に入っていました。踏んだ感触や音の感じを楽しんで、皆で喜んだり、この中をかき分け  
て飛んでいくことなどもとても意識していました。

最後に拾ったものを集めて、それを机に並べて、名前は知らないけどすごく大きいとか、こ  
れはすごく固いとか言いながら、それを見せ合っていました。**ものを見る目や感じ方、見逃し  
そうなことに気付かせてもらえました。**あの経験があったからだと思います。**自然の中での  
そのような目や考え方、意識の仕方が、生活の中で伸びていくといいな**と思いました。それ  
は考える力、注意して見る力、何だろうと思う力はこのようなところで育つのだと思いま  
した。それはこのようなところで生きてくるのではないのでしょうか。

スタッフ①:そうですか。

先生④:楽しんで帰ってきました。

スタッフ①:ビンゴカード以外に、そのような気付く力を伸ばすためにされていることはありますか？

先生④:

ビンゴカードも、今年初めていろいろな年齢で楽しみました。園庭で虫の何かを見つけたなどの子どもの小さな気付きに対して、私たち大人は、「えー、何々？」というような、じっと見守っているようなことではないでしょうか。

スタッフ①:

数年前に、こちらで一番町保育園さんの動画を撮らせてもらいましたが、そのときに子どもに任せる保育を意識しているというお話を聞いたのがとても印象深かったのを覚えています。その保育のよさが、自然の中に来ることで余計に際立つのかもしれないと思ったりしていました。やはり、あまり口を出さないことも関係があるのでしょうか。

先生④:

大人が道を付けない感じでしょうか。このようにしようと考えて、皆を誘導し始めると考えなくなります。それに乗っていけば、先生も機嫌がいいとなれば、やはりそうなります。もちろん、そのようにしなければならぬこともあります。皆でこの葉を1枚ずつ手に取って、においを嗅いでみましょうということではありません。

やり方としては例えば、節目ごとに花壇のことを意識するようにしています。年少さんの場合はもっと分かりやすいように、「この花なーんだ？」とお部屋に貼ってあったりして、拡大されたものがあります。それに注目して、「それはお庭のどこにある？」と聞くようなことを親子が遊びで取り入れているのを見えています。そのようにして発見していくのだなあとか、気が向くののだなあなどと思っています。ただ、今これに気付いてほしいなどと誘導するわけではありません。

スタッフ①:きっかけをつくるのですか。

先生④:

そうです。先生たちも、そのような雰囲気だと思います。無理やりにはしていません。

自然に「お花、きれいね」、「あ、これ面白いね」などと言う感じです。

スタッフ①:そこが難しいのですが、プロの先生方はすごいです。

先生④:子どもが気付くのを待っています。

スタッフ①:大事ですね。それが年中さんや年長さんになると、一気に花開いてくるわけですね。

先生④:そうですね、そのような気がします。

スタッフ①:ありがとうございます。では次の先生、お願いします。

先生⑤:

印象的だったことが一つあります。普段服を汚せない女の子がいました。その子はあそこに行ったときも初めは汚れることに少し抵抗があったのですが、土の坂の滑り台などに行って平気で遊ぶ子の姿を見ているうちに、私もやってみよう、という感じになってきました。最初は嫌がっていたのですが、何回目かになると気にすることもなくなり、それ以降は汚れることも全く気にしなくなって、積極的に楽しんでいました。その姿が印象的でした。

汚れることがあまり好きではない子もいるのですが、そのような子たちも、最後は草の上に寝転がるようになるなど、**汚れることに抵抗がなくなっているのがすごい**と感じました。

スタッフ①:

一番町保育園は、普通の園よりもどろんこ遊びなどをしているイメージがありますが、それでもやはり嫌いな子は、どろんこ遊びなどはしないのですか。

先生⑤:

この子はそうでした。感覚過敏ではありませんが、そのようなところが弱い子でした。どろんこ遊びなどが苦手で、汚れるのが嫌いな子でした。それで服もシャツを入れられませんでした。そのような子だったので、保育園でもそのようなことが少し苦手でした。それでも**自然の中に入ると、のびのび、というか、気にしないで遊んでいたことに驚きました**。他の子はすごいです。そのような特性がある子でしたが、すごく楽しんでいて、気にしていませんでした。

スタッフ①:驚きました。

先生⑤:

子どもが変わったことにも驚きましたが、**大人の僕たちの目線が変わったというのもすごい**です。これが終わってからの感想です。子どもたちはもちろんですが、自然に対して、もっと遊べる、こうしてあげよう、ということをやより強く思いました。

スタッフ①:それはうれしいです。

先生⑤:すごく楽しかったです。子どもより楽しんでいたかもしれません。

スタッフ①:具体的にこれが楽しかったということはありますか。

先生⑤:忘れてしまいました。

スタッフ①:少し前なので、そうかもしれません。

先生⑤:

それでもすごく楽しかったです。一緒にやっている担任の先生とも、すごく楽しかったと言っていました。その後他の場所にも行こうと言っていたのですが結局忙しくて行けませんでした。

スタッフ①:分かります。

先生⑤:

残念でした。ですから今度3月に行くときに、前回のようにグループに分けて遊べると思っています。園長先生も、どんどんやってほしいと言っていたので、これから増やしていきたいと思います。

スタッフ①:うれしいです。

先生⑤:

**子どもたちの目線は低いですが、大人たちの目線は高いので全く違います**。ですから腰を落とすことを意識はしていましたが、全然足りていませんでした。**普段の散歩でも、大人の目線と子どもの目線が全く違うということをやより強く感じました**。子どもたちは面白いものをたくさん見つけていました。もちろん、スタッフの方が教えてくれたということもありますが、子どもたちも自分でたくさん見つけていました。きのこはたくさんあるのですが、僕たちはよ

く分からなくて怖いので、全部触ってはいけないと言ってしまう。しかし、いろいろ触らせてもらって、においも嗅がせてもらったりすることができました。そのような知識は大事なのだということは思いました。

スタッフ①:

振り返りのときにスタッフが、ここの園児たちは、見つける力や好奇心がすごい子たちがそろっているとっていました。それは普段からの保育のおかげだろうと思います。目線が大地に近いというのは、あの年代の大きなメリットですね。

先生⑤:

怖いもの知らずのところもいいです。何でも触ります。先日、年長の子が、「見て」と言ってごみのようなものを持って来たのですが、ここまで近づけてくるのでよく見ると、それは大きなガでした。

スタッフ①:すごいです。怖くないのですね。

先生⑤:

頭にさせたり、肩にさせたりして平気で遊んでいました。「こいつ、飛ばないんだよ」などと言っていました。迎えに来たお母さんに触らせて、お母さんは「キヤー」と悲鳴を上げていました。

スタッフ①:帰ってきてからもいい感じですね。

先生⑤:

そうです。帰ってきてからもっと行きたいと思いましたが、結局、グラウンドに行く程度で、そこまで自然が多い所には行けていません。そこがもったいと感じました。

スタッフ①:

なかなか難しいですね。でも、先ほども言ったのですが、私たちとしては、これだけ体験している園児たちが、逆に1回、遊木の森に来ただけで、それほど大きく変わるのだろうかという疑問を持っています。そこについてぜひ伺いたいです。

先生⑤:寝転ぶことは多くなったかもしれません。

スタッフ①:そうですか。

先生⑤:地面によく寝転んでいます。以前からいましたか。

先生⑥:2歳児は、どういうわけか結構いました。

先生⑤:年長は寝転んでいる子が増えました。

先生⑥:大地を感じています。

スタッフ①:お子さんによってはできない子も結構います。それこそ汚いのが嫌だからです。

先生⑤:

どろんこの時期は皆が感じています。本当に寝ています。泥パックではありませんが、髪の毛もすごいことになっています。

スタッフ①:髪の毛もすごいのですか。

先生⑤:そうです。髪を泥で洗うではないですが、そのような感じです。

スタッフ①:すごいです。

先生⑤:

誰かがかけているのに、黙々とこちらで遊んでいて、全く平気です。それ以外のときに大地を感じています。

スタッフ①:すごいです。

先生⑤:確かに、2歳もそうです。

先生⑥:2歳が最も多いです。

スタッフ①:いいですね。では次の先生、お願いします。

先生⑥:

ラーニングストーリーに書いたのは、オオバコの草相撲を教えてもらったことです。した

2024.10.31 一番町保育園

こ とがなかったわけではないと思います。そもそも 4 歳児になりましたが、皆、集中して話を聞くのはそれほど得意ではありません。せつかく教えてくれているのに、話をちゃんと聞こうとしない姿勢が本当に申し訳ありませんでした。

私も大丈夫かなと思ってずっと心配していたのですが、耳にはきちんと入ってるようです。いろいろと好き勝手なことばかり言ったり、いろいろな所へ行ってしまうたりしていたので、きちんと集中できているのかどうか心配でしたが、オオバコの草相撲を教えてもらっていたことは聞いていたようです。子どもたちの中で戦いごっこや競争するような遊びが少しブームになっていて、自分を武装するような遊びをしていた時期だったと思います。

それでその子は、自分の腰のベルトに、オオバコをいくつも差し込んで、この次はこの武器を使うというように遊んでいました。自分の戦いというイメージの中で遊んでいたことが面白く思っていて見えていました。草そのものの遊びに関心が向くというよりは、自分たちのゲームの中に素材として引き込んで使っていたのかもしれないと思いました。私としては、「これだったらちょっと強いよ」とか、「この葉っぱの長さだったらどう？」と言って進めたかったのですが、そのようなことは全く聞いてくれず、全部自分たちで、次はこれ、次はこれと遊んでいました。帰ってきてもそれを続けているところもあったので、楽しかったのだろうと思いました。

スタッフ①:覚えてくれているんですね。

先生⑥:

すごくやっていました。今でも手持ち無沙汰になると、草摘んできて遊んでいることもあるので、ふっと思い出すのかもしれませんが。体験はすごいと思います。知らなかったわけでは思いますが、やはり遊木の森が自然環境しかない場所だからかもしれません。

今の子どもたちはゲームやテレビやスマホに走ったりするので、そのような遊びが主流ですが、自然しかないという環境の中に、その子どもたちがいきなり入ると、最初は多分面食らうと思いますが、徐々にそれにもなじんで、探検したがるようになりました。どこまでも上に上がっていつてしまうことなどがそうです。

スタッフ①:スタッフもそう言っていました。

先生⑥:

「いいの？ そっち行っていいの？」、「それ、触ってもいいの？」などと言って、どきどきしながら見ていましたが、「それ以上奥に行くと、人の土地です」と教えてもらったりしながら探検していました。

ここの保育園にも自然環境はあると思いますが、本当に自然しかないという場所で、

2024.10.31 一番町保育園

子どもたちが何を見つけるだろうというのはとても面白いです。危険だとか、ニーズが足りないだとかいうことがあって、どうしてもできないことや制約が多くなるのですが、**そのよ  
うな環境に置いてあげることのほうが大事なのかもしれません。**

スタッフ①:本当にそうです。

先生⑥:

これが終わった後に城北公園に 1 度行きました。年中と年長の子どもたちで行きましたが、そのときにも自然探しを思い出して、いろいろなものを探していました。石畳の所に、小さい葉が形を作っていて、それを見つけた子が、「あれ面白いよね、これ」と言って教えてくれました。やはり**あの時のことが印象に残って、糧になっている**というのが感じられます。**自分の中で興味のあることが一つ増えたのだ**と思いました。

スタッフ①:うれしいです。

先生⑥:

大丈夫だろうかと心配ばかりが先立っていましたが、本当にいい経験だったと思います。

スタッフ①:やはり自然の力はすごいです。

先生⑥:そういうことです。

スタッフ①:

他のスタッフも、全然知らない自然の中に来て、知らないスタッフがいる中で、あれだけ元気に知らない所に入っていけることがすごいと言っていました。

先生⑥:それは知りませんでした。

スタッフ①:

**自然は危険なように見えて、実際はそれほど危険でもないのかもしれません。**本当に大げがをする例えば崖のような所には行かないようにしているので、都会で車が走っている所よりも逆に安全な場所なのかもしれないと思います。

先生⑥:

そうです。自然の懐の大きさのようなものを感じられるといいです。それこそ大地に寝

2024.10.31 一番町保育園

転んでではありませんが、そのような感覚が子どもの中にキャッチできるのはすごくいいと思います。

スタッフ①:ありがとうございます。では最後をお願いします。

先生⑦:

私は遊木の森に行っていないくて子どもたちの様子も見えていないので、分からないところがあります。今の話を聞いて、今のクラスでは2歳児を持っていて想像して考えてみると、今のクラスの子は自然がとても好きですが、自然がいっぱいあるような所には、なかなか連れて行ってあげられていないので、そのような所に連れて行ってあげられれば、発見ももっと広がるかもしれないというのは思います。虫がとても好きな子も多くて、近くのグラウンドに行きますが、本当に広いグラウンドで、木が生えていて、落ち葉が少し落ちているような、ちょっとした自然の中でも、一生懸命ダンゴムシを探して、寒い冬でも土をこのようにして、無理やりダンゴムシ出してくることもあります。ダンゴムシが埋まっていることも知っていて、一生懸命探します。ぜひ17軒の森に連れて行ってあげたいです。

スタッフ①:そのような体験は本当に貴重ですね。ありがとうございます。

一同:ありがとうございました。